

調査レポート

令和2年3月期景気見通し調査

～新型コロナウイルスの影響大、景況は全業種大幅に悪化～

調査概要

- 調査時期
令和2年3月2日(月)～9日(月)
- 調査方法
FAXによる送付、回収
- 調査対象
会員小規模事業所415件
- 回答数
209件(回答率50.3%)
- D-I値とは:
ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「良い」「上昇した」とする割合から「悪い」「下落した」とする割合を差し引いたもの。

業界・自社の景況

業界の景況は、新型コロナウイルス等の影響で前回(令和元年12月)から大幅に悪化し、現在D-I値▲61.2となった。下落幅20.1ポイントは、平成20年以降では消費税率5%から8%への引き上げ(平成26年4月、▲27.2)に次ぐ悪化である。今後3か月の見通しを表す先行D-I値は▲68.9とさらに7.7ポイント下落、今後も悪化が続く見込みとなった(グラフ1)。また、自社の景況は現在D-I値▲50.2となり、前回からの下落幅19.5ポイントと大幅に悪化した(グラフ2)。

資金繰り

資金繰りは、「やや苦しい」「非常に苦しい」との回答が全業種で45.2%となり、前回から7.1ポイント増加し、悪化していることがうかがえる(グラフ3)。業種別では、小売業で「やや苦しい」「非常に苦しい」との回答が半数を超えたほか、卸売業、サービス業でもこれらの回答が前回から大幅に上昇。新型コロナウイルスの影響による消費の冷え込みが、資金繰り悪化の大きな要因と推測される。

経営上の課題・新型コロナウイルスの影響

経営上の課題(外的要因)については「新型コロナウイルスの影響」と回答した事業所が、46.9%と最も多い回答となった。次いで「同業他社との競争激化」も44.5%と前回同様高い割合となっており、市場における日々の競争に加え、今般の新型コロナウイルスの多方面に渡る悪影響によって、小規模事業者の体力の消耗が懸念される(グラフ4)。

また「新型コロナウイルスの影響」と回答した事業所(以下、コロナ)と、

そうでない事業所(以下、コロナ以外)についてD-I値を比較すると、業界の景況においては、コロナが▲74.0、コロナ以外が▲50.0と24.0ポイントの差となった。自社の景況においても、コロナが▲61.5、コロナ以外が▲39.8と21.7ポイントもの大きな差が開いており、新型コロナウイルスが経営に与える影響は深刻であることが明らかとなった(表1)。

トピックス調査

「時間外労働の上限規制について」

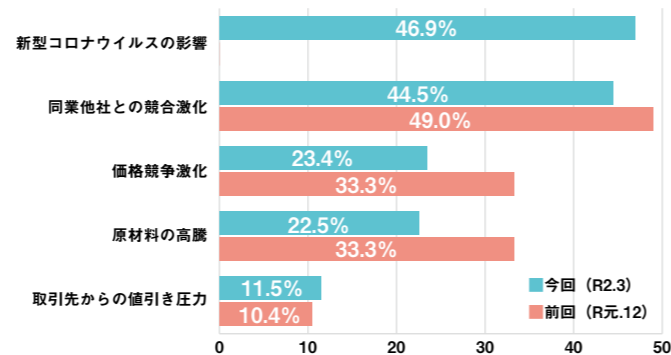
本年4月より、中小企業においても時間外労働の上限規制が導入されることから、事業者の法改正への理解度等について調査を行った。

従業員数で比較すると、「知っており内容も理解している」との回答は、11名以上は83.9%、6～10名は61.4%、5名以内は31.2%と、小規模事業者の中でも従業員規模が比較的大きい事業所は法改正への理解や準備も進んでいることが分かる(グラフ5)。しかし、従業員規模が小さくなるにつれて理解度は低下しており、十分な対策ができるか懸念される結果となった。

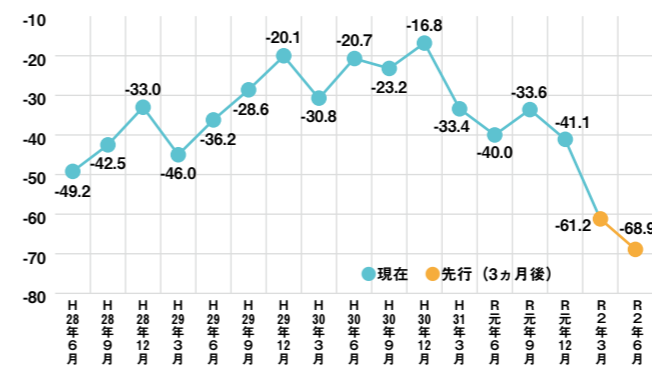
表1 新型コロナウイルスを課題に挙げた事業所の景況D-I値の比較

	R2年1～3月(今期)の現在D-I値			R2年4～6月(見通し)の先行D-I値		
	コロナ	コロナ以外	差	コロナ	コロナ以外	差
① 業界の景況	-74.0	-50.0	-24.0	-81.3	-59.2	-22.1
② 自社の景況	-61.5	-39.8	-21.7	-78.1	-57.1	-21.0

グラフ4 経営上の課題(外的要因)



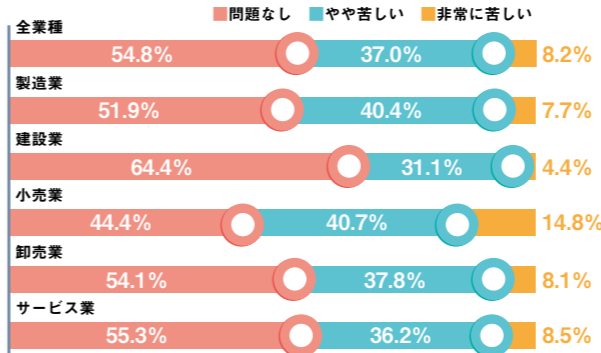
グラフ1 業界の景況



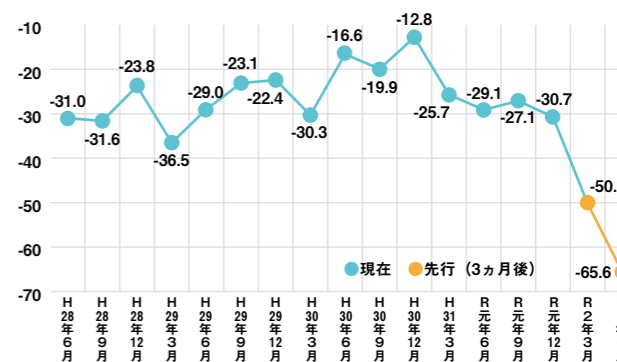
業種	前回調査との比較					
	①業界の景況	②自社の景況	③売上高(受注高)	④販売価格(受注単価)	⑤仕入価格(経費率)	⑥採算(収支)
全業種	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
製造業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
建設業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
小売業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
卸売業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
サービス業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化

※青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を表している。

グラフ3 資金繰り(現状)



グラフ2 自社の景況



お問合せ

福井商工会議所 金融・税務相談課

0776-33-8284

詳細についてはQRコードよりホームページをご覧ください



グラフ5 時間外労働の上限規制について(従業員数別)

